

# 目 次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋創一

東京大学教授

文学博士 佐藤信

## 第一章 上田地方の原始・古代文化

### 第一節 旧石器時代の上田地方

一 旧石器人の暮らしと文化

日本列島の旧石器文化

自然環境

石の道具

石器群の移り変わり

旧石器人の暮らしの復元

二 上田地方の最古の人びと

旧石器人の生活舞台

黒曜石産出地の遺跡群

菅平遺跡群

### 第二節 縄文時代の上田市域

一 縄文人の暮らしと文化

縄文時代の名称と区分

気候

土器の出現と変遷

縄文人の食料

縄文人の住まいと集落

繩文人の祀りと信仰	9
二 上田市域の縄文遺跡	11
縄文遺跡　草創期から早期の遺跡　前期から中期の遺跡　後・晚期の遺跡	11
第三節 弥生時代の上田市域	11
一 弥生人の暮らしと文化	11
日本列島の弥生文化　中部高地の二つの文化圏　弥生人の住まいと集落　弥生人の道具	11
二 上田市域の弥生遺跡	12
弥生遺跡　千曲川北岸の遺跡　千曲川南岸の遺跡　塙田平の遺跡　川西地域の遺跡	12
第四節 古墳時代の上田市域	15
一 古墳時代の暮らしと文化	15
古墳時代の特色　庶民の住まい　生産の用具	15
二 上田市域の古墳時代遺跡	16
集落の広がり　豪族の墓—古墳　古墳の築造　大藏京古墳　王子塚古墳　二子塚古墳 他田塚古墳・塚穴原第一号古墳　赤坂將軍塚古墳	16
第一章 古代の中央政権下に、次第に組み込まれていく上田地方	15
第一節 信濃国造の動静と地方	23

## 第二節 律令制度下の上田地方

28

大宝律令 律令制度 律令制度と地方の政治 正倉院宝物 国郡郷

租・庸・調 稲役・雜徭・出拳 兵役

### 第三節 中央文化と上田地方

32

防人の歌 万葉集の東歌 苦しい農民の生活 『日本靈異記』 小県郡内の郷 当時の人口

渡来人 古社と古寺 延喜式神名帳 塩原牧 塩原郷 御井神 農民の生活 穫穴住居

### 第四節 上田市域における荘園の発生

39

口分田の荒廃と荘園の発生

## 第三章 所領に命をかけた地方武士

### 第一節 開発領主から御家人に

#### 一 荘園の成立と開発領主

開発領主 荘園の成立 公領の変容

#### 二 地方武士の成長

保元・治承寿永の乱にかける 浮沈を分けた文治三年放生会 東信濃の武士も鎌倉殿御家人に

### 第二節 鎌倉時代の社会

48

46

43

43

諏訪上下社と信濃国御家人　寺と僧と仏法　市場と町屋

第三節 南北朝時代の争いと所領の変動

塩田北条氏の滅亡　上田小県地方の動き　中先代の乱　塩田荘に村上氏　観応の擾乱と滋野一党の敗北  
諏訪氏、祢津氏足利方に屈す　外来の守護と土着領主との軋轢　南北両朝の合一

第四節 室町時代の上田

一大塔合戦の起因と結果

大塔合戦の起きたわけ

大塔合戦のようす

大塔合戦の結果

二 上田地方の国人領主

再び小笠原氏による信濃支配

結城陣番帳に見える国人

諏訪上社の古記録に見える国人

三 海野氏と村上氏の衝突

小笠原氏分裂後の国人の動き

海野氏と村上氏の戦い

海野氏の所領拡大

四 市と牛頭天王祭文

手工業生産の増加　銭貨の流通　市の発達

天王地名と市

牛頭天王祭文と市

中世城下町の市

第五節 戦国時代の上田

一 武田信玄の上田小県地方来攻と交戦

ねらわれた信濃　晴信による信濃制圧　上田原合戦　砥石合戦　葛尾城と塩田城の落城　川中島合戦

信玄による西上野制圧　信玄武将の起請文　信玄の死去　武田氏の滅亡

二 戦国領主の居館と山城

上田市内の居館跡　上田市の山城跡

三 領民の負担

領民の負担

武田氏の軍役

兵糧運送や普請の夫役

その他諸々の役

貫高と年貢

上田耕

## 第六節 武田氏家臣から台頭した真田氏

信玄、勝頼に仕えた真田昌幸 真田昌幸の自立 上田城築城

## 第七節 近世上田藩主への道

関東惣無事令 親は豊臣子は徳川へ 慶長六年八月 真田氏の転封と仙石氏の入部  
仙石氏の所領と家臣団 城下町の形成 村と百姓

## 第四章 身分制社会

### 第一節 武士の社会

一 大野木左門 物頭任命	83
上田藩の人事異動 大野木左門の「心覚之手控」 横田地主水に師範の依頼 先手組の引き渡し	83
二 同勤との初寄合開催	
二 武士たちの実態：	
『家中諸事心得手控帳』の作成 武家社会の諸問題	92

### 第二節 村と百姓

一 散田と入百姓	93
入百姓の世話は賞詞 散田の発生 八木沢村の入百姓	93
二 賞詞と格式	

藩財政の窮乏と調達金 調達金と格式授与 格式授与の推移例 調達金と格式の具体例

三 収入を求めて…… 103

耕作以外の仕事 上塙尻村の蚕種商い

第三節 商いの世の中 106

『評定録』は語る 106

播州三木城主松波主計頭 信州上田藩主松平伊賀守忠優 百姓の諸商、耕作懈怠の基

二 在方商の発展と町方の反発 108

商売をめぐる町在の対立 寛政期の第二次町在商一件 上塙尻村和平の一札

天保期の第三次町在商一件 町方による在方商荷差留 町方制度書と在方制度書

## 第五章 新しい時代の萌芽

第一節 物価の変動と蚕糸業の展開 117

一 幕末期の物価上昇 117

佐藤浅之助の旅中日記帳 豆腐の普及 上田藩の豆腐統制 上田城下の豆腐値段変動

二 開国と養蚕・蚕種業 120

養蚕・蚕種業の盛況 養蚕書刊行と技術向上

第二節 『百合ささめごと』の世界 123

『百合ささめごと』 上田城下町と市 奢侈の羽子板 藩の儉約令 安政二年の儉約令  
華美になる衣類 節振る舞いと食生活の変化

## 第二節 子孫永続の願い

131

天保期の農村政策 嘉永期の農村改革 尾崎一助の耕耘算 農政改革の挫折 永続高と永続講  
上塩尻村の信友講 各組・町の永続講 大原幽学と永続講 『小県郡年表』にみる幕末維新

## 第六章 近代化する町と暮らし

### 第一節 変わりゆく城下町

147

#### 一 新しい時代の波

147

版籍奉還と藩主の渡米

明治二年の上田騒動

上田城を民間へ払い下げる

文明開化と上田町

#### 二 通信・運輸の発達

150

飛脚を廃し国営郵便へ

天皇巡幸と交通機関

荷車と人力車

信越線開通と県道の建設

#### 三 商業・蚕業の隆盛

152

発展する商業 銀行の設立

蚕都上田の繁栄

### 第二節 蚕糸教育と日清・日露戦争

155

#### 一 小県蚕業学校

155

設立への動き 校舎と桑園を借用して開校 新校舎の建設

#### 二 蚕糸専門学校

156

上田への誘致を積極的に運動 針塚校長の教育方針

#### 三 日清・日露戦争

157

日清戦争と町の人々

日露戦争の戦没者

### 第三節 上田市誕生と地域文化の興隆

- 一 近代都市の建設 ..... 158
- 上田に待望の市制施行 上水道が落成 新市街の発展 私鉄各線開通
- 二 青年会の地域活動 ..... 160
- 『時報』を編集・発行 図書館の経営
- 三 児童自由画・農民美術運動の発祥 ..... 162
- 「人間としての能力を伸ばす」 第一回児童自由画展 農民美術の始まり 農民美術研究所を建設
- 四 市民による社会教育の展開 ..... 164
- 図書館の開館 上田自由大学創立 上田市民大学開講
- 五 大正期の文化人 ..... 166
- 広い分野で活躍 山極勝三郎人工がん造成 久米正雄が文壇に登場

### 第七章 戦争と経済の高度成長

#### 第一節 昭和前期

- 一 地域の経済を支えた養蚕 ..... 171
- 今も残る蚕室づくりの家 農家の住まい 人を雇つて養蚕 地主制度と村のしくみ
- 二 世界恐慌と上田 ..... 171
- 羊を飼つてホームスパンを 上田に飛行場を造る 飛行場の開設 産業振興に工場招致
- 三 戦争への道 ..... 174
- 奉安殿と忠魂碑 出征兵士を送る 戦死した人は神様になる 小学生から銃を持って

簡聞点呼で引き締める

四 太平洋戦争

十二月八日 上田にも多くの人が疎開 三回の上田空襲

第二節 昭和中期 新しい社会へ

一 敗戦と混乱

玉音放送で敗戦を迎える 戰争は終わったが

学校は今までどおり 戰後処理と食糧増産

二 米軍の日本占領

上田へ来た進駐軍

二十一年一月の軍政部活動

文書や出版物の検閲

三 戰後処理と人々の生活

教育から軍国主義の排除 ひどい衛生状態

すべての物が配給

四 民主主義の社会へ

新しい憲法への市民の関心 新しい憲法の話

婦人にも参政権 天皇陛下の上田巡幸

五 新しい教育制度と文化財保護

六・三・三制のスタート 大きく変わった日本の歴史

上田城の櫓を再建する 村に教育委員会 P T A の発足

六 日本の新しい進路

朝鮮戦争と日本の方向 二つの考え方と政治の行方

第三節 産業復興に向かって

一 平和産業への構築

軍需産業から平和産業へ 昭和二十一年の常田館の状況

二 工場誘致により雇用の拡大

専売公社上田工場の操業 長野計器を小諸から誘致

### 三 生活を豊かにするため

神川鉱毒問題 上田駅の新築と駅前ビルの建築

上田

xviii

## 第四節 経済の高度成長と上田市民の生活

### 一 物があふれて

高度経済成長 三種の神器 変わる台所 上水道の完備 核家族と住宅建設 毎日が盆正月  
自動販売機の普及 流行を追う衣生活

### 二 上田の街と郊外

日曜広場の登場 スーパーマーケットの出現 郊外型大型スーパー コンビニの登場 上田の街の変貌

### 三 工業の街上田とその変化

相次ぐ工場進出 にぎやかな入社式 上田の高度経済成長 新しい工業地帯の形成 企業の海外進出  
産業の空洞化・リストラ・不況

### 四 激変した農業と農業生産

機械化農業へ 農業構造改善事業 塩田鯉の生産と崩壊 兼業農家の増加 米の生産調整  
なくなつた養蚕業 農産物の輸入

212

## 第五節 進む都市化の中での上田市民の生活

### 一 交通の変化と市民生活

バスと電車 自動車の普及 道路・橋の整備 高速交通網の整備 宅配便の普及

218

### 二 激変した通信と市民生活

郵便物の激増 電話の普及 携帯電話の時代 I.T.革命とネットワークの時代

221

### 三 外国に接近する上田

224

205

201

201

199

外国を意識する市民生活 海外旅行の広がり 留学生の増加 外国人労働者の増加

四 上田の環境問題： 226

高度経済成長と公害 水質汚濁と下水道完備 ゴミ問題 循環型社会の建設へ

次世代に継ぐ豊かな自然

五 豊かな市民生活を目指して

少子高齢社会 支え合う共生社会 上田の魅力の発見と創造 上田市の未来

### 執筆分担

全編章のおわりに —過去から未来への座標軸の原点に立つて—

あとがき

### 参考文献

### 上田市誌の編さん組織

### 表紙

上田城跡本丸東虎口櫓門

文化財として、また、上田市のシンボルとして平成六年四月二十四日竣工式が行われた。南北に櫓を配し、美しい姿を見せている。ここに立つと、真田・仙石・松平の時代の人々の足跡がしのばれる

### 千曲川の流れ

上田市を東から西に貫流する千曲川は、古から今日まで一時も休むことなく流れ続けている。この川の水の流れのように、上田市の歴史は未来に向かって、今も歩み続けている